

## 「峰山観測所の思い出」

桑田直宏

峰山観測所設立 30 周年おめでとうございます。長い年月にわたり活動を続けてこられた皆様の情熱と努力に、心からの敬意を表します。

私は自分の観測所があることから、観測所にお邪魔をしたのは数えるほどですが、その中で一番の思い出といえば、2001 年のしし座流星雨をこの観測所で星なかま姫路のメンバーと朝まで観たことです。私の長い天文人生の中でも一番の天文イベントがこれです。

しし座流星前は約 33 年に 1 回大出現を繰り返してきて、1999 年がピークと言われていた。実際ヨーロッパを中心に、1 時間当たり数千個の大規模な出現があった。例年なら 2001 年に大流星雨が起るなんて考えもしなかったところである。ところが、イギリスのアッシャー博士が今回 3 回のしし座流星雨予想（ダストトレイル理論）を発表するやことごとく的中させていた。その氏が 2001 年 11 月 19 日に今度は東アジアを中心に大流星雨が出現すると発表したのである。19 日は平日にあたり、普段なら家でちょっと見ようかなぐらいで済ましていたと思う。でも、あのアッシャー博士の予報だから間違いはないと確信をもって準備をして、星なかま姫路のメンバーと峰山高原に集まった。

到着した頃は全天曇りだったが、西は晴れてきているという情報が入り、赤道儀とカメラのセッティングを開始した。するとメンバーが「オー、すごい長い流星や！」という声を何度も発した。もどかしく感じながら準備をしたのを覚えている。しし座が東から上がってくる頃には流星がどんどん増えてきた。夜中になってしし座が南中する頃にはしし座を中心にまさに流星が雨のように四方八方に流れた。満月クラスの明るい火球もいくつか流れては夜空を焦がし、流星痕がずっと残り、それを次の大火球がまた明るく照らすという信じられないような光景を体験することが出来た。



2001 年しし座流星雨 ニコン F2 16 mm F2.8

この未曾有の天文現象を、星なかまのメンバーと共に喜び合えたことで感動はさらに大きくなり、最高の思い出となった。明け方近くまであまりにたくさんの流星を見たため、「もうしばらく流星はいいわ。」みたいなことを誰かが言った。同感である。

帰りの播但連絡道を走っていると、空が白み始めた中、明るい流星が次々と地平線に流れ落ちていくのが車のウィンドウ越しに見えた。今でもその光景は脳裏にしっかりと刻まれている。

日本では、しし群の放射点が地平線上に現れた、19 日 0 時(日本時間)頃から、明るい流星が出現し、2 時台には 1 時間に 2000 個を大幅に超える流星が各地で観測された。さらに、3 時台にはそれを上回る大出現で、1 時間に数千個を超えられる、まさに、雨のように流星が流れる「流星雨」が観測されている。(国立天文台観測チームより)